

■上値の重い日本株

日本株は上値の重い展開が続いています。日経平均株価は6日に終値でおよそ3ヵ月ぶりに7万円の大台を回復したものの、その後はAI(人工知能)投資の収益化を巡る懸念や、中国メモリーメーカーとの競争激化への警戒感から関連銘柄が下落したことで軟調に推移しています(図表①)。

今後の焦点は、来週以降本格化する日米ハイテク企業の決算発表です。足元で日本株が不安定な動きを見せている要因の1つとして、中長期的なAI成長ストーリーが揺らいでいることが考えられますが、一方でアップルやマイクロソフトなど米大手ハイテク企業7社で構成される「マグニフィセント・セブン」は最高値圏での推移が続いています(同図)。

これらの企業は強固な財務基盤を持ち、また利益成長への期待も高いため、半導体株からの受け皿として資金が流入していると見られます。市場の期待通りに巨額のAI投資が収益拡大につながるとの見方が決算で示されるか、今後の相場を占う上で重要なポイントと思われます。

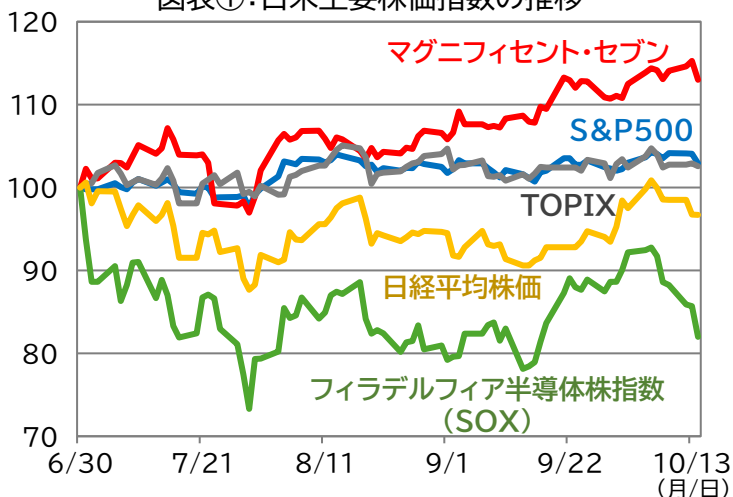
■世界が見守る米中間選挙

来月3日の投開票まで3週間を切った米中間選挙を巡り、与党・共和党の苦戦が予想されている(図表②)ことも、相場の不安定さを増幅させています。上下両院で野党・民主党が過半数を奪還し、同党左派によるAIデータセンター投資への規制懸念が強まれば、相場をけん引してきた米ハイテク株に冷や水を浴びせかねないとの見方があるからです。

もっとも、米大統領は議会立法への拒否権という強い権限を有するため、民主党が両院を握ってもただちに規制が成立する可能性は低いと思われます。また、過去の例では日米ともに中間選挙の約1ヵ月前までは株価が軟調に推移するものの、投票日に向けて持ち直し、選挙後は上昇する傾向にあります(図表③)。重要選挙を通過することで政局を巡る不透明感が後退するほか、その後の大統領選を意識した政策への期待も株高につながってきたものと思われます。あくまで過去の経験則になりますが、中間選挙後は年末に向けて株高が期待されます。

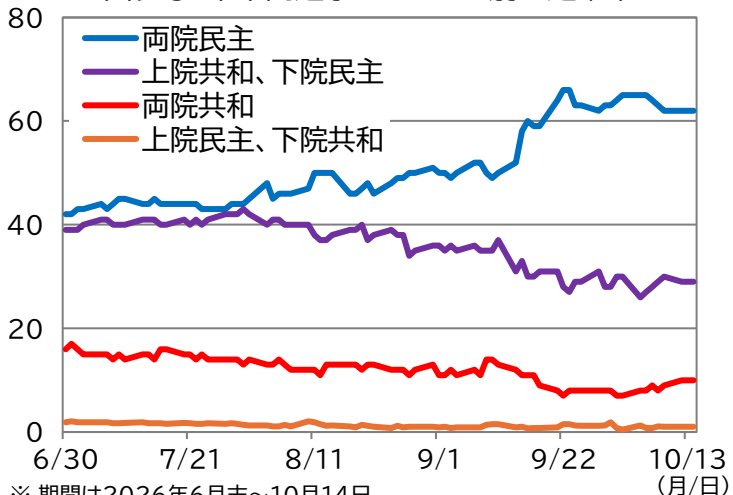
※ 個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

図表①:日米主要株価指数の推移



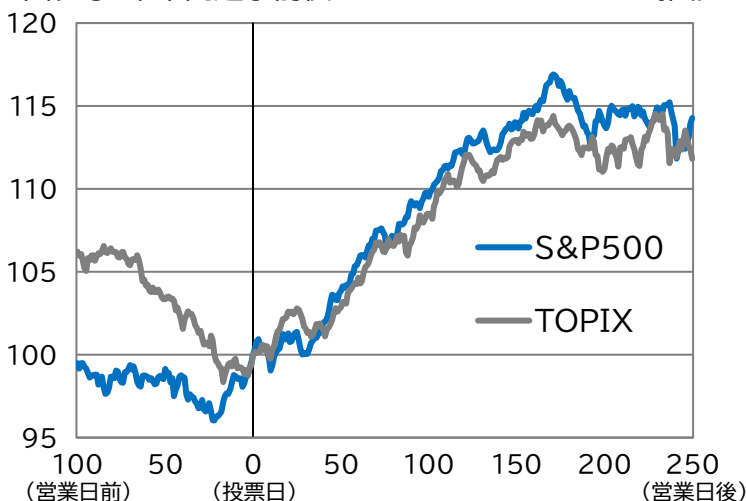
※ 期間は2026年6月末～10月14日、2026年6月末を100として指数化(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

図表②:米中間選挙のシナリオ別生起確率



※ 期間は2026年6月末～10月14日
※ 米ボリマーケット(予測市場大手)が織り込む米中間選挙のシナリオ別生起確率(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

図表③:米中間選挙前後のS&P500とTOPIXの推移



※ 1970年以降に行われた過去14回の米中間選挙前後におけるS&P500およびTOPIXの値動きを、投票日(非営業日の場合は前営業日)の株価を100として指数化し平均化(出所)Bloombergよりいちよしアセットマネジメント作成

◆当資料は投資判断のご参考となる情報提供を目的としていちよしアセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申し込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書(交付目録見書)をお渡ししますので、必ず内容をご確認のうえ、お客様ご自身でご判断下さい。
◆当資料は信頼できると考えられる情報をもとに作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載は過去の実績であり、将来の成果を示唆、保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。